

注意欠陥・多動性障害の子 脳に共通の特徴発見 福井大学

2018年12月3日 21時07分

物事に集中できないADHD＝「注意欠陥・多動性障害」の子どもの脳に共通して見られる特徴があることを福井大学の研究グループが発見し、将来的に正確な診断に応用できる可能性があるとしています。ADHDは子どもの時に発症する発達障害の一つで、注意力を持続できないほか、落ち着きがないなどの症状が現れ、投薬や生活環境に配慮するなどの治療が行われますが、自閉症などほかの障害と症状が似ているケースがあり、正確な診断が課題になっています。

福井大学の友田明美教授のグループは、日本やアメリカなどでADHDと診断された男の子120人余りの脳の形態をMRIと呼ばれる装置で調べ、どのような特徴があるか調べました。

その結果、およそ7割のADHDの子どもの脳では、脳の前頭葉と呼ばれる部分にあり感情をつかさどると言われる「眼窩前頭皮質」と呼ばれる部分の厚みが増して表面積が小さくなるなど、脳のおよそ20か所で形態の特徴が見られたということです。

グループは、今回の解析はAI＝人工知能を使うことで発見できたとしていて、これまでの症状の観察と画像解析を組み合わせることで、将来的に正確な診断に応用できる可能性があるとしています。

友田教授は「今後さらに精度を上げ、正確な診断を支援できるシステムをつくっていきたい」と話していました。

出處：

https://www3.nhk.or.jp/news/html/20181203/k10011733251000.html?utm_int=news-new_contents_list-items_042

中譯：

福井大學的新發現 患有注意力不足過動症的孩子其腦內據有共同特徵

2018 年 12 月 3 日 21 時 07 分

福井大學的研究團隊發現，對於事物無法集中精神，ADHD(Attention Deficit Hyperactivity Disorder)=「注意力不足過動症」的孩子，其腦內擁有共同的特徵。並表示可能將此發現運用於正確的診斷上。

ADHD 是於孩童時期併發的過動症的一種。包括會出現注意力無法集中、無法冷靜下來的症狀。過動症透過藥物跟日常生活照料……等等來進行治療。但由於跟自閉症和其他的殘疾的病徵有非常相像的案例，所以如何正確的診斷也成了一個難題。

在福井大學，友田明美教授的研究團隊，透過一種名為 MRI 的裝置，調查了 120 多位被日本或美國診斷出 ADHD 的男孩的大腦型態。並持續調查他們都擁有怎樣的特徵。

其結果可以看出大約七成患有小兒過動症的大腦中，在被稱為前額葉的部分中，控管情感區域的「眶額皮質 (orbitofrontal cortex)」的部分有增厚且表面積縮小的現象……等，也在腦中發現了 20 多處的特徵型態。

研究團隊表示，這次的分析結果是透過使用人工智能 A I 來促成的發現。透過觀察到目前為止的症狀和組合圖像解析，未來將有可能應用於正確的診斷中。

友田教授更表示：「為了提升今後醫療診斷的精準度，我想製作出能提供正確診斷的系統。」